

マザーハウス たより

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。

移送・出所される方は、必ずご一報ください。

表紙：光りんさん

2018

5

月号

- | | | | |
|----|------------|----|---------|
| 2 | 理事長挨拶 | 14 | 心の相談室 |
| 4 | 社会の声 | 15 | 塀の中のたより |
| 10 | 特別コーナー | 21 | 健康相談窓口 |
| 12 | ささきみつおコーナー | 23 | つぶやき！ |
| 13 | 育児日記 | 23 | 行事予定 |

このマザーハウスたよりは、公益財団法人日工組社会安全研究財団の助成より作成したものです。

理事長挨拶

皆さん、お元気でお過ごしでしょうか？
マザーハウスでは、私を含め、当事者ス
タッフ五名が風邪をひいてしまいました。
これには理由があります。

実は、四月二十二日に、出所者のO
さんが突然、訪ねてきました。私は教
会のミサにあずかって帰る途中でした。
妻から連絡があり、事務所に人がいな
かったので、私の自宅まで行ったようです。
非常識にも程があると思いました。何
の連絡もなしに日曜日にいきなり事務所
を訪ね、しかもそのまま家にまで行くこ
は、何を考えているのかと思います。こ
れが社会復帰した人なのです。刑務所
では、一般常識を学ぶ機会もないのです。

私は、その時に一緒にいた仲間と、O
さんに事情を聞きました。

Oさんは、出所するにあたり、同囚か

ら伝言を頼まれ、某組事務所に行き、
それを伝えたところ、「組員にならない
か」と誘われたそうです。彼は、組員に
なるのは嫌なので断ったそうですが、仕
事がないので、元受刑仲間と社会復帰し
た人のところに連絡を取り、そこに行き、
ある仕事をしたそうです。その仲間はそ
の後、組織に加入し、Oさんに「覚せい
剤の売買をしないか」と言ってきたそう
です。Oさんはそれが嫌で、給料ももら
わず逃げてきたようで、新橋で野宿をし、
マザーハウスに来たとのことでした。

組織が絡んでいることなので、私は、知
人である警視庁の組織犯罪対策室の刑
事に連絡を取り、相談したところ、連れ
てくるように言われ、警察に同行しまし
た。事情聴取が終わった後、彼が、「所
持金が四十円しかなく、朝から何も食べ
ていない」と言うので、「飯と一緒に食べ、
」社会復帰してから風呂も入っていない」
と言うので、銭湯に連れて行きました。

私はOさんに言いました。「あなたには
常識がないのですか？社会復帰後、す
ぐに連絡をしてくるのなら、その時はあ
なたのお金がまだあるので必要な手配も
出来ますが、今、全く無い状況でどう
するつもりだったのですか？マザーハウス
だから何でも無料でやってくれるという

甘い考えはやめてください。私たちもみ
んな一生懸命生きているのです。生活も
厳しい状況なのです」。

彼にはそんなことを考える余裕もない
のでしたが、厳しく話をしました。

その後、Oさんを連れて、東京保護観
察所のある霞が関の法務省に行き、対
応してもらおうと思ったのですが、全
く相手にしてくれませんでした。法務省
の人は、「閉庁日なので、観察所の人が
いても金庫の鍵がなく、緊急保護は出
来ない」と言うのです。全く無責任であ
り、社会復帰した人が路頭に困ってい
ても何もせず放置するのか、と呆れました。
これが更生保護なのか、と思いました。



光りんさん

そこで、法務省の前で「助けて」と叫
び続けてみれば何とかしてくれるのでは
ないか、ということで、法務省の前でO
さんを車から降ろしました。彼は一生懸
命、叫び続けていました。

十分後、どうなったのか見に来たので
すが、法務省の人が彼にしたことは、「公
道だから、通行人の邪魔になる。どけ」
と言っただけだそうです。さすがの私も
頭に來たので、そこにいた法務省の人に
「それでもあなたは人間ですか。困ってい
る人を助けることもしないのか。国家公
務員として恥ずかしくないのか」と言い
ましたが、「何もできません」の一点張
りでした。

仕方がないので、Oさんを連れて帰り、
事務所まで話を聞いていたところ、体調が
悪そうなので、体温を測ってみると、熱
が三十八度九分あり、病院の緊急外来
に連れて行きました。診察を受けようと
すると、国民健康保険証も所持してい
なかつたので、自費で診察・検査を受け
ると、インフルエンザA型との診断が出ま
した。こちらももびつくりです。病院から
は、「入院はできないので引き取ってくだ
さい」と言われました。Oさんをそのま
ま放置して置くわけにもいかず、宿泊す
るところを確保し、朝食や飲み物等を
購入し、彼を寝かせました。

翌朝、彼を連れて生活保護申請をし、無事に受理されました。その際、昨日の病院の診療費のことも相談したところ、対応してくれることになり、助かりました。診察費は二万一千円でした。当然、その費用は全部私個人の自腹で払ったので、家族のいる私にとっては大きな痛手でした。

法務省のやり方には腹が立つて仕方ありません。正直、こういうことはやりたくないのですが、キリストが私に命じるのです。「愛を実践しなさい。愛は痛いのです。苦しいのです。だから、キリストのためにするのです」。

結局、Oさんと直接関わったマザーハウスのスタッフ五名が風邪をひいてしまいましたが、誰一人、人のせいにすることなく辛い病気の時間を過ごしており、成長したなと感じました。

マザー・テレサが私に教えてくださった、「目の前の人を愛する。目の前のキリストを愛する」ということがどういうことなのか、この頃、良く分かるようになりました。キリストに触れる、ということが毎日できるので、嬉しくて仕方ないです。

今回のことを通して、刑務所での生活や行動、社会復帰後の計画等がとても重要であると感じました。

また、全く甘い考えの受刑者がたくさんいるということも良く分かりました。受刑者の皆さん、自分を変えるのは人ではないです。自分自身です。私たちにできることは寄り添うことだけです。そのことをしっかりと考えて頂きたいです。

三月二十日に、少年院を仮退院したM君を引き取りましたが、残念なことに、法人の大切な物を勝手に持ち出し、刑事の取り調べを受け、書類送検となりました。

彼には母親がいますが、全く呆れるほど息子に甘く、これでは回復は困難であると感じました。遺産が入ったことで、何でも息子にお金を渡して解決するような関係で、母親としての自覚がなく、子どもがかわいそうであると感じました。

M君が犯罪行為をする背景には、母親との関係や、生育環境が大きく影響しているのだと思います。少年非行にとつて家庭環境の影響はとても大きいし、回復にも大きな影響があると感じました。また、男子にとつて母親との関係性はすごく重要であると感じました。M君が回復することを切に願っています。

先日、文通担当者より皆様に連絡をいたしました。また男女間の文通であるとの勘違いしている受刑者がいますので、再度言わせて頂きます。

この「ラブレター・プロジェクト」は「真心の手紙」という意味であり、回復（更生）と社会復帰を目指す交流のためのものです。そのことをしっかりと理解して頂きたいです。今後、女性との文通希望をお知らせの申し込みは一切、受理しませんのでご理解ください。皆さんが逆の立場になれば良く分かることだと思います。

また、文通スタッフに何らかの依頼事をするのは一切、止めて頂きたいです。この点につきましても、判明次第、文通中止決定をさせていただきます。



風つ子さん

キリスト教会関係者の皆様にお願ひがあります。

当事者の方々が製造に関わっているマリアコーヒー（ルワンダ・コーヒー）を是非、教会等で販売、もしくは喫茶等で使用していただければ幸いです。ルワンダ共和国はキリスト教国であり、このコーヒーの収益は、ルワンダで働く女性及び子どもたちの支援にもなっております。

いつも皆さんにお願いばかりしており、支えてくださっていることに感謝です。

今回の社会復帰したOさんのことを考えると、法務省は「再犯防止」と言いながら、実際は、国や行政は全く当事者のことを考えていないことが分かります。

マザーハウスでは、当事者主体の居場所作りをしたく、事務所の隣に「マリアカフェ」を開設することを考えています。この場所は、当事者ミーティングやカウンセリング、地域の方たちとの触れ合い、加害者家族の相談室、いじめの相談室、生活保護・住宅についての相談室などを行うスペースとして使います。

部屋は確保したのですが、もともとは倉庫として使用されていた場所のため、壁も床もコンクリートむき出しで、設備も全く整っていません。

そこで、改装等が必要であり、二百万円を目標に、独自のクラウドファンディングを開始したいと思っています。一口二千円から応募できます。五口以上応募してくださった方には、ささやかな気持ちですが、受刑者の方々が心を込めて描いた獄中POSTシリーズのミニセット（ポストカード一枚、封筒一枚、便箋十枚）を二セットお送りさせていただきます。

☆応募先

みずほ銀行本所支店

普通口座 2043684

特定非営利活動法人マザーハウス

いつも本当にありがとうございます。
何卒どうぞよろしく願いいたします。



一兵さん

社会の声

立命館大学

講演後アンケート

＊去年の十二月、マザーハウス修学旅行時に立命館大学の学生たちに向けて講演した時の感想・意見をご紹介いたします。

☆

まず、犯罪を起こした人のパーソナリティ（個性・人柄）に対する捉え方を理解する必要がある。例えば、反社会性のパーソナリティ障害として、内省力・共感力の未開発、他罰的・攻撃的な問題解決方法を取りやすい、という傾向がある。しかし、全ての凶悪な犯罪に走りやすいというものではない。

アリス・ミラーは、人間関係を含む生活環境の重要性を強調している。すなわち、犯罪や自己破壊行為が生じる主要因として、子供の存在の全体性を無条件に信じ、愛し、尊重してくれる人の欠如や不安定が挙げられ、具体的には、家庭の崩壊や、障害・貧困等の複合的な原因があるとしている。その為、個人の属性を固定的に捉える（この人はこういう人なんだ、犯罪をするような人なんだ、と決めつける）のではなく、「パーソナリティは、他者との相互作用の中で葛藤と退行を繰り返し、発展して行くものである」と捉える必要がある。

☆

五十嵐さんの、「幸せな家族とは何なのか」「僕は刑務所の中で、社会との交流を通して、自分は大切に、必要とされる、愛される人間だと学んだ」、という言葉がとても印象的で心に残っています。授業や刑事訴訟法のゼミの中で、刑務所の実態や歴史というものは学んできたつもりでしたが、実際に元受刑者の方からのお話を聴くと、新鮮かつ説得力のあるものでした。

また、五十嵐さんは、「刑務所での生活は反省する場ではなく、犯罪行為を学ぶ場」という内容のお話もされていて

したが、その時に、高校時代に読んだ『反省させると犯罪者になります』という本を思い出しました。反省ばかりを求めてしまうと、偽善が身についてしまい、また罪を犯してしまう。反省させることが更生に繋がる訳では無い、という言葉は、本当にその通りだと思いました。

☆

社会の常識は刑務所の常識とは全く異なり、逆に、刑務所での常識も社会の常識と異なる一方で、その差をなくしていかないと、出所後のスムーズな社会復帰につながらないと思う。より一般社会に近い形の刑務所になっていくことが重要なかなと感じた。

☆

犯罪など、人が行動を踏み外してしまう瞬間というのは、本当に簡単なことがきっかけなのだと思う。

周りにとっては些細なことかもしれないが、本人にとっては重いものになる。五十嵐さんの場合、特に、自分が一番信頼していた家族から信じてもらえず、さらに、自分が悪くないことが判明しても謝ってもらえなかったのだから、心の大きな傷になったはずだ。

中には、「そんなことは世の中よくあることだ。そのくらいで傷ついていたらだめだ」とか、「疑われるようなことをしたお前にも責任があるはずだ」と言う人もいるかもしれない。けれど、やられた側は本当に辛いし、苦しい。

「こういう事は、いじめなどにも当てはまるのではないだろうか。自分も、いじめられたり、疑いを掛けられたりして、本当に苦しかった。でも、周りからは、「世の中そんなもんだ。お前も悪い」とばかり言われてきた。社会はいつも冷たい。いじめがきっかけで非行や引きこもりになったとしても、「自分が悪い」とばかり言われ、その人の背景も考えず、すぐに「厳罰・死刑にしろ」などと言う。

けれど、問題が起るのは、当人の責任だけではなく、そのようなことをさせてしまう社会にも責任があるのではないだろうか。いじめをする側も、ストレスや悩みがあつて、それで自分より弱い人間を見つけていじめてしまう場合もある。

出所した人に対して、社会は、「また刑務所に行ってくれ」と言っているような扱いを現実に行っている。みんなが生きづらさを感じない良い社会を作るためには、みんなが人の痛みや苦しみを分け合い、向き合っていくべきではないだろうか。

そして、自分ができることを、実際に誰かにすることが大事だと感じた。

☆

今回の話を聴いて、いつ自分が当事者になるか分からないと感じた。

また、刑務所と一般社会が完全に切り離されているこの現在の仕組みが、再犯を繰り返しているのだと思った。罪を償うことは大事なことで、二度と同じ過ちを踏ませないよう、更生させることも償うことだと思う。受刑者本人が変わろうとする環境を刑務所も提供すべきだと思った。



おたふくさん

☆

私は、今回の五十嵐さんの講演が、初めて元受刑者とお会いする機会になりました。そして、刑務所に対するイメージを授業や紙から想像するのではなく、実際に刑務所に入っていた方のお話を伺う必要があると強く感じました。

☆

数日前、情報番組「MUSICサンデー」で、二〇一四年三月に発生した川口高齢者夫婦殺害事件の特集がされており、当時十七歳の少年が何故、祖父母を殺害してしまったのか、少年の壮絶な生い立ちを知りました。

番組のスタッフが、彼に世間に訴えたいことを聞いた際の、『世間に訴えたい』とかはおこがましいが、今、孤独とされている子どもに孤独を味わわせないで、二度と自分のような人間をつくらないでください」という彼の言葉から、罪を犯す人が生まれてしまう社会のあり方に問題があると感じました。そして、五十嵐さんが石巻事件についてお話しされている時に、そのことを改めて強く思いました。

同時に、社会の中で繋がりをもち、周りの支えがあることは、人が生きていく

上でとても大切なことであると思いました。社会に暮らす私たちが、犯罪を起こしたことにだけ目を向けるのではなく、罪を犯す人が生まれてしまう社会のあり方に目を向ける必要があると思いました。

☆

五十嵐さんがおっしゃっていた、「犯罪者も、同じ赤い血の流れた同じ人間であり、変れないことはない」という言葉にとっても感銘を受けました。

犯罪は社会制度がつくり、生まれながらの犯罪者はいないと私も考えます。なので、犯罪を起こしてしまった人でも、自分は価値のある人間であり、社会に必要とされている人間であるということを確認できるような社会を、これから作っていく必要があると思いました。

☆

受刑者の社会復帰の難しさを知ることができました。私たちにとても無関係な話ではなく、受刑者の立場になる可能性はあるわけで、私たちがより受刑者の更生や社会復帰に関心を持つ必要があると思います。

☆

今回のお話を聴いて、「犯罪を起してしまふ人は、家庭環境がよくない」ということを再認識した。小学校や中学校のときに、やんちゃなことをして困らせる子がある程度いた。親に、その子たちはなぜイタズラばかりするのか聞いたところ、「寂しいから。お母さんやお父さんに構ってもらえなくてかわいそうな子」という答えが返ってきた。その時は納得できなかったが、いまは理解できる。自分にも子どもができたら、その子みたいな状況にさせたくないと思う。

☆



死刑囚

今回、元受刑者の方の話を聴いて、世間的にマイナスのイメージがつく社会復帰が難しくなる、と感じました。

自分自身、元受刑者の方に対して悪いイメージはありません。むしろ、社会に出ることができるといことは、反省して人生をやり直すチャンスであり、そのお手伝いができればいいなと思うくらいです。しかし、世間の目が厳しいのが現実であることも否定できません。

今の時代、多様性を認める社会であるべきだと僕は思います。確かに、犯罪を起すことは許されることではありません。しかし、ちゃんと服役し、罪を償い、出所した人には、それ相応の社会復帰の機会が与えられるべきであると思いました。

☆

お話を聴いて、刑務所は閉鎖的な場所であり、国民の目が届いていないことを良いことに、公開されれば問題になりそうな環境である、ということを変更してみました。

受刑者に対して厳しすぎる扱いをするのは、犯罪をした者が危険だという認識が根底にあるからだと思われませんが、現

状のような扱いを受けていては、社会復帰をすることは困難であると思います。

なぜなら、これらの扱いは、社会では許容されないことだからです。刑務所に長期間いれば、刑務所内での常識に染まっていくと思いますが、社会で通用しない常識に染まった人間が、社会に戻ってきたときにスムーズに社会復帰することはできないと思います。五十嵐さんが話されていた、「刑務所の常識は社会の非常識、社会の常識は刑務所の非常識」という言葉に、刑務所における人権の軽視があらわれていると感じました。

また、このような刑務所の実態を打破するためには、国民が刑務所の実態について認識していく必要があると感じました。「刑務所側が最も恐れていることは国民の目である」と五十嵐さんは話されていましたが、その通りであると感じました。

刑務所や法務省は国側の組織であるにも関わらず、刑務所内で人権を無視するかのようないがあることについて看過しています。刑務所は、受刑者といういわば社会から隔離された者を集めているため、社会はできる限り、そのような場所から目を背けているように思えます。しかし、受刑者も社会で生活して

いる者と同じように人間であることから、人権があり、また、いずれ社会に戻ってくるため、社会が刑務所の実態を認識し、改善に向けた行動をとっていくことが求められていると思います。

最後に、人とのつながりが社会復帰に最も必要なことだと感じました。人とのつながりがなければ、満期で出所したとしても再び犯罪に手を染め、刑務所に戻ってくる可能性が高いと思います。そのため、社会の受け入れ態勢を整えていくことが必要だと考えます。

現状としてはまだ厳しい環境にあると思いますが、だからこそ、弁護士やマザーハウスのような、犯罪に手を染めてしまった人たちとつながる人・組織の役割は大きいものだと思います。

☆

犯罪加害者の謝罪について、「それは誰の気持ちか?」「話すことで楽になるが、被害者の気持ちはどうなのか?」という指摘をしたことが印象に残りました。

私も、友達といざこざがあった時、苦しくなり、「謝罪したい」と思っても、相手は謝罪される事でより傷付くのではないかと考え、謝罪できない事がありました。

相手の気持ちは分からないので、何が正解かは分かりませんが、「もう放っておいてほしい」という感情を犯罪被害者が持つ事も考えられ、場合によっては善とされる謝罪が悪になる可能性もあるのだと気付かされました。

☆

お話を聴いて、受刑者の社会復帰って本当に難しい事なのだなと感じました。出所した後にお金がない、役所で生活保護を受けることが難しい、就職活動での企業の対応の違い、社会との関わり合いがなかった生活からいきなり社会に放り出される、など、人との人間関係が築けていない中で生活するのはとても難しい事だと思いました。

☆

今回のお話を伺い、また、これまでの授業を通して、やはり、受刑者の方や元受刑者の方への世間の認識の改善が必要であると感じた。

五十嵐さんの言葉で、「反省は一人できる。しかし、社会復帰、更生は一人ではできない」という言葉が印象に残っている。刑期を終えて社会に復帰したとしても、一人では、生活する場所を確

保することも、職を探すことも難しい。たしかにその通りだと感じた。

そして、もし私が大家だったら、もし会社の人事担当だったら、と思うと、果たして、前科のある人に部屋を貸し、雇うかどうかは分からない。むしろ、否定的に考えて、拒否する可能性の方が高い。その人の身分や人柄を知り得なければ、そういった意見になるのは仕方ないことだと私は思う。

そのため、身元引受人という、社会復帰した後初めて関わる方の存在が、元受刑者の方たちのその後を一番に変えるものであると感じる。元受刑者についての私たち社会の印象は厳しい。しかしこれは根強く残るもので、変えることは本当に難しいと思う。私たちはまず一歩として、身分引受人の方たちを信じるところから始めるのが良いのではないかと感じた。

☆

今日のゲストスピーカーの五十嵐さんのお話は、実際に刑務所で体験されたお話だったので、私が今までの講義で先生の話聴いて想像するより、ずっと現実味がありました。

☆

五十嵐さんのお話で印象的だったのは、「犯罪行為者は、宇宙から突然ボーンとやってくるわけではない。何らかの原因があって、社会から出てくる。そして、また社会へ戻る」という言葉です。犯罪学の授業でも習ったように、「犯罪者」という人格があるのではなく、犯罪行為をしたことで「犯罪者」になる、という認識を当事者から聞くことができ、とてもリアリティをもつて理解できました。そして、社会が犯罪行為者に関心を持ち、拒否の姿勢をゆるめ、社会復帰に役立つ努力をする必要があると分かりました。

☆

現在は、法律により多少の改善はされているが、基本的に塀の中はブラックボックスになつてしまっている。この状況を変えるには、社会が変わらなければならぬし、社会が変わるには、国民の認識が変わらなければいけないと痛感した。

☆

お話を聴いて一番心に残ったことは、「更正」という言葉の代わりに、「回復」という言葉を使っていたことです。

確かに、更正という言葉は、回復という言葉よりもどこかきつい感じがして、こういう一つひとつの言葉の捉え方から、社会復帰しやすい環境というものが生まれるのかなと思いました。

また、「一度刑務所を出た人でも、社会との繋がりがないと、頼るところが悪い仲間しかいないので、そこでまた犯罪に手を染めて刑務所に戻ってしまう」、と聞いて、再び犯罪に走ってしまうと、刑務所の「更正」という目的が果たせていないと感じました。そして、この「社会との繋がりが」というのは、文通によって繋がりを保つことができるので、文通の重要性を感じました。



一兵さん

犯罪をした人も我々も同じ人間なので、刑務所の中の話は関係のない話ではなく、偏見をなくして接していくことで本当の更生につながっていくと思います。

☆

今まで法律学を学んできたが、判決確定後の収監中、及び出所後の話は初めてだったので、良い機会になった。

確かに、犯罪を起こしていない人からしてみれば、服役していた人が社会に出て自身と関わるのは恐ろしい面も当然ある。しかし、収監の本質である、再犯防止と社会復帰という目的から言えば、社会との関わりは必ず途絶えさせるべきではないと感じた。刑務所で犯罪について学ぶことももちろん大切であるが、それだけでは社会復帰は達成されないと思った。

また、先日、海外の刑務所内での運動の様子を映したビデオを見る機会があった。アメリカではヨーガが行われ、フィリピンでは日本のアニメのダンスが行われていた。どちらも、収容者の精神衛生（メンタルヘルス）にとつて、とても良さそうだった。出所後の人生が少なからず大変である収容者からすれば、刑務所内の環境も重要なことであると感じた。

☆

五十嵐さんの講義を聴いて、マザーハウスのことを初めて知った。そこで実施されている回復プログラムに感銘を受けた。

社会に出るための支援として、素晴らしいものだと感じた。例えば、社会に出るために人間力を高めさせたり、社会に出る準備をさせたり、危害を加えた被害者に対するの思いを整理させたり、今の自分を悔い改めさせたり、それに関しての感情を整理させたり、自分に悔い改める力があるか確認させたり、自分を見つめ直させたりなど、これらをノートに書き出させ、目に見える形で行っているのは、とても効果があるやり方であるなと思った。

自分は、所属しているゼミで再犯防止や出口支援を学んだが、今回の講義を聴いて、より一層、この二点は大事なものであると思った。

加害者に犯した罪を償わせることは当たり前であるが、その人自身が変わることはもちろんのこと、一番大切なことは、人と人との繋がりについて十分に理解を得させることではないかと考える。難しいと思うが、刑務所内でもっと人との繋がりについての講義や場を設けるのが良いのではないだろうか。

☆

一番信用できるはずだった家族に裏切られた経験が、五十嵐さんを非行の道へと駆り立てた、という話を聴いて、やはり幼少期に受けた経験は、その後の人生に与える影響が大きいと分かりました。家に居場所が無くなると、外の世界に居場所を求めるのは自然なことだと思うし、そこで自分が必要とされる存在である実感すると、その居場所を失いたくないから、際限なく犯罪行為までしてしまうのだと思いました。



雪兎さん

他人と接触する機会が乏しい刑務所にいると心が荒むのはむしろ自然な流れであり、結果として再犯につながりやすいと思われるため、刑務所においても、他者とのコミュニケーションの場を設けるべきでしょう。

二〇一六年には、覚せい剤を常習していた男性が、飼い猫との生活を続けるために禁断症状に耐え、使用を止めることができた、という実話が映画化されました。その話からも分かるように、他者との関係があることが再犯防止につながりやすいことを鑑みると、受刑中から他者との交流を持てるよう、刑務所を開かれた場所にする必要があると思いました。

☆

犯罪というのは、いつ誰が犯してしまうか分からないもので、自分が犯罪者になってしまう可能性もあれば、友人や家族が犯罪に手を染めてしまいかもしれません。同じ失敗をもう一度してしまわないように、再犯を犯してしまわないように、社会全体で努めることが大事なのではないかと感じました。

☆

今日の話を聴いて一番心に残っていることは、「もちろん犯罪者が一番悪いけれど、その犯罪を起こす環境を作っている社会も悪い」とおっしゃっていたことです。

普段、テレビの報道などを見ていると、どうしても一般人の側から物事を見てしまい、「犯罪を起こす人が悪い」「犯罪を起こすなんて自分じゃ考えられない」という風に思ってしまう。しかし、最近、ゼミ論文を書くための文献を読んでいる中で、女子受刑者や高齢者の再犯率が高いことを知り、社会の政策として、もっと何かできることがあるのではないかと考えるようになりました。そんな中で今日の講演は、私が最近考えていたことに通じる部分があり、とても興味を持って聞くことができました。

☆

刑務所内の実状だけでなく、社会の在り方、問題、人としてあるべき姿などを改めて勉強でき、人間的に成長できた時間になったと思います。五十嵐さんの言葉一つひとつが心に刺さり、今、そしてこれから自分はどうあるべきなのかを深く考えさせられました。

☆

特に私が問題であると感じたのは、受刑者の社会復帰についてである。刑務所と、私たちが生きる社会は遠く切り離され、受刑者は社会復帰が困難な状況にある。もし仮に、刑務所から出所した後、「もう犯罪行為を行うことなく、心機一転、一般社会で頑張ろう」と思っ

て社会復帰しても、現在の社会の仕組みからすると、前科があるということや煙たがられ、社会にうまく馴染むことができない。こういったことも、再犯が行われる原因の一つではないかと私は考える。

また、身元引き受け人の不在や、社会復帰後の住居など、社会に出る前から問題が多い状態も改善されなければならぬ問題である。仮に身元引き受け人がいたとしても、それがヤクザであっては意味がない。

たしかに、私も、元受刑者と関わりを持ちたくないという気持ちは山々である。近くに前科のある人間が住んでいると分かったら、警戒心を強く抱くことは否定できない。しかし、前科のある人でも、反省し、社会に積極的に馴染もうとしているのであれば、一般社会に身を置く側も歩み寄って、元受刑者の手を引いてあげるべきなのかもしれない。

犯罪をする人間は、それまで生きた経緯が困難であることが多い。親からの虐待や学校でのいじめ、劣悪な生活環境等が、人格を形成する上で障害となり、人として誤った道へ足を踏み入れてしま

うのである。そういった、社会に希望を見出せなかった人間が、受刑後にも一度一般社会に臨もうとするのであれば、その一般社会を成す我々が、積極的に受け入れる姿勢を示すべきであると私は考える。犯罪者も、社会に出れば私たちと違わぬ人間である、ということを前提に、共生する術を今一度考えることが必要であると、今回の講義で感じた。

☆

罪を犯した人は、「ごめんなさい」と謝るだけではなく、自分の犯した罪にちゃんと向き合うべきだと感じました。罪にちゃんと向き合うことで反省し、その人が変わっていくことで、社会も更生した犯罪者に対して変わっていくのではないかと思います。ですが、現状だとそれは困難なため、ちゃんと更生できるように刑務所などを変えていかなければならないと思いました。

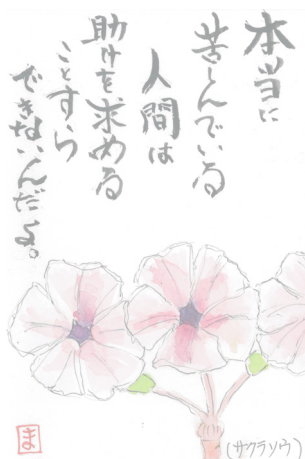
また、今回のような、現状を知る機会には、なぜ犯罪が起きるのかについて考えることができるので、大事だと思います。

☆

今回の講演では、普段あまり見聞きすることのできない刑務所の実情について知ることができました。

実際に刑務所で起きたイジメなどは、外部の私たちに情報として多くは伝わってきません。もちろん、社会との厚い壁があるからなのですが、私たちが刑務所の中を知ろうとしていなかったのも、その理由ではないかと思っています。社会と刑務所の関係について改めて考えさせられました。

また、官僚や大臣など、刑務所の制度を改善したり変更したりする立場の人々が現場の惨状を知らない、というのも問題であると思いました。



風つ子さん

☆

私が予想していたよりもはるかに刑務所は厳しいと知って、こんなことでは、再犯を防ぐことは不可能に近いと思いました。

なぜなら、犯罪を起こす人は、孤独を感じていたりして、心の中で助けを求めている人だと思うからです。だから、更生させるためには、精神的側面のケアが大切であり、心を豊かにする手助けをしなければなりません。厳しい規則を押しつけるだけでは、心は豊かになりませんし、心の傷も癒えません。したがって、刑務所施設の見直しが必要だと思えます。犯罪をした人も、していない人も、どちらも同じ人間です。刑務所だから人権を制限することが許される、なんてことは絶対にありません。

また、社会復帰した際、職を見つけないといけないですが、一人で見つけることはとても困難なため、一緒に手伝ってあげる人が必要です。社会に出れば人との関わりが重要なので、刑務所にいる時から、人とのコミュニケーションを取る機会を与えるべきであると考えます。

(来月号につづく…)

特別コーナー

マザー・テレサの言葉

＊マザー・テレサが以前日本で講演した際にお話しされた内容を、シスターからいただいたので、ご紹介いたします。



死刑囚

神様はあなたを
愛しておられます

「一緒に会いする機会を与えてくださったことを感謝しましょう。イエスの母であるマリアに、聖母のような汚れない心、愛に満ちた謙遜な心を与えてくださるよう願いましょう。私たちも聖母にならってイエスを愛することができるよう、貧しい人々の姿に身をやつしたイエスを愛し、仕えることができますように願いましょう。」

神は私たちを愛し、私たちを目的を持ってお創りになりました。これはなんと素晴らしいことでしょう。私たちが創られた目的とは、愛し、愛されることです。これが私たちの存在理由なのです。そして、私たちにどのように愛するかを教えるために、イエスはこの世においてになりました。

イエスは、良い知らせをあなたと私にだけなく、世界中のすべての人々にもたらしてくださいました。その良い知らせとは、何でしょうか。それは、神が存在しておられること、神は私たちを愛し、

私たちが神に倣って互いに愛し合うのを望んでおられることです。

私たちはすべての美しいもの、周囲の美しい木々や人々を見る時、そして、父や母がどれだけ私たちを愛しているかを見る時、神がどれほど私たちを愛してくださっているかに気づきます。そして神は、ご自分が私たち一人ひとりを愛するよう、私たちが互いに愛し合うようにと望んでおられます。

信じれば

愛するようになり、

愛すれば

行動するようになる

十字架を見ると、イエスがどれほど私たちを愛してくださっているかが分かります。

イエスは私たちにも同じようにして、つまり犠牲をして、自分が傷つくまで与え、愛するようと望んでおられます。この愛はどこで始まるのでしょうか。

それは家庭です。そして一緒に祈ることとで始まります。父母、兄弟姉妹と共に祈るとき、私たちの家族はいつも一致しています。家族が一致しているとは、互いに愛し合っていることを意味しています。まず、家族から愛することが大切です。

愛は家庭から始まります。ですから、両親に、また先生方に祈ることを習ってください。祈れば清い心を持つことができます。なぜなら、心が自由に開かれていくからです。

祈ることを習うのは大切です。祈りの結果、信仰が深まり、神が私を愛しておられると信じるようになります。そして、信仰の実りは愛です。「私も愛さなければならぬ」と感じます。そして、愛の実りは奉仕です。「私も何かしなければならぬ」と感じるようになります。「このように、祈り、信仰、愛、奉仕は、家庭の中で立派に繋がっています。祈れば信じるようになります、信じれば愛するようになります、愛すれば何か行動を起こすようになります。」



私にとつての犠牲は、 他の人にとつては 神様からの賜物になる

小さな四歳の子が、自分が傷つくまで与えた例をお話ししましょう。

カルカッタにある私たちの子供の家には、砂糖がありませんでした。この小さい四歳の子は、「マザー・テレサの家には子供にあげる砂糖がない」と聞いて、両親に、「僕は三日間砂糖を食べないで、それをマザー・テレサにあげる」と言っただけです。

そして三日後、両親はその子を私たちの家に連れてきました。その子は私の名前もちゃんと言えないくらい小さい子でした。それでもその小さな手には、三日間食べないで溜めた砂糖が握られていました。小さいながらも大きな愛を持っていました。自分が傷つくまで愛したからです。自分は食べたいのに食べないで、他の子にあげたのです。

これは、神に対する本当に美しい行いです。

あなたも自分自身に尋ねてください。「私はこんなふうに真実に愛したことがあるだろうか？ 傷つくまで愛したことがあるだろうか？」と。

もし、そうしたことがあるなら、これからも何度か続けるように努力してください。そうすれば、あなたの心には愛の喜びが生まれるでしょう。

神が私を愛しておられるのですから、愛の喜びを感じるのです。それは神に愛されている喜びなのです。そして神が私を愛してくださるのだから、私も他の人々を愛さなければならぬ。

このようにして、行動の愛に立派に繋がっていきます。

言葉で、「神を愛します」と言っただけでは、十分ではありません。父母、兄弟姉妹、または家のない貧しい人に向かつて、「あなたを愛しています」と言うだけでは、足りません。

「愛します」と言うことは、分かち合う行いをする、その人のために何かをするということです。愛を生きた行動に移すことです。それは私にとっては犠牲であっても、その人にとっては神からの賜物となります。

生きた愛

大切なのは、どれほど沢山与えるかではなく、どれだけ沢山の愛をもつて与えるかです。これが与える喜びです。このような愛はどこで始まるのでしょうか。家庭です。おそらく、最初は単に小さな微笑に過ぎないかもしれません。

あなたのお父さん、お母さん、兄弟姉妹、家族の誰かに病人がいるかもしれません。あなたの隣人の誰かが病気かもしれません。そのことを知っていますか。そしてそのことに対して何かをすることが必要です。

多くの人々がカルカッタにやってきます。日本からもやってきます。その人たちが私に何と言うかご存知ですか。「私たちは国にいたときには状況をただ見ていただけで、注意して心を向けていませんでした。今ここにきて見ているだけではなく、よく注意し、それに対して何か行うことを学んだ」と言います。

私たちが何かをすること。これが真の「生きた愛」で、ここから愛する喜びが生まれるのです。

神もこのようになさいます。神も私たちによく注目しておられます。私たちが案じておられます。私たちが互いに愛し合うことで神を愛するよう、望んでおられます。

イエスは何度もおっしゃいました。「私の名において一杯の水を与えるのは、私に与えるのである。私の名で子供を受け入れるのは、私を受け入れるのである」(マタイ十章四十二節と十八章五節)と。

「このことをもつと、はつきりさせるために、イエスは何度もおっしゃいました。「私が飢えていた時、あなたは食べ物をくれた」(マタイ二十五章三十五節)と。あなたたちは飢えがどんなものかご存知ないでしょう。でも、今日の世界に、アフリカ、エチオピア、インドに、本当に飢えた人が沢山います。今日も、エチオピアで飢えて死にかけている子供たちがいます。

先日、子供のシスターから電話がありました。「マザー、どうぞ食べ物を送ってください。子供や大人が飢えて死にかけています」と言ってきました。お分かりでしょうか。私たちは周囲で何が起っているかをよく知らないのです。

(来月号につづく…)

わさきみつお 「コーナー」

* ブログ : <http://ixsasaki.ti-da.net/>

「負けるが勝ち」と

「負けても勝ち」

「負けるが勝ち」

子供の頃、祖父と一緒に将棋を指した。

初めのうちはまったく歯が立たず、負けてばかりいて悔しい思いをした。そのうち時々勝てるようになり、夢中になって将棋にのめり込んだ時期があった。祖父はわざと負けてくれていたことに、後で気がついた。

「負けるが勝ち」とは、愛による犠牲の勝利である。

「負けても勝ち」

絶対に勝てると思って一生懸命戦っても、負けることがある。

Aさんは、立て続けに三件の裁判に敗訴した。本当はAさんが正しいのに、三件とも証拠不十分で負けてしまったのだ。

「勝訴を信じてあれほど祈りに祈って戦ったのに、なぜ負けたのだろうか?」。

弁護した私も信じられなかった。Aさんは、会社と個人の自己破産を申請せざるを得ない状況に追い込まれた。同時に、夫婦関係も悪化し、別居に追い込まれた。これまで離婚は絶対しないと頑張ってきたが、妻の強い離婚要求に応じざるを得なくなった。

「もうダメです。これ以上戦えません!」。公私ともに破たん寸前のAさん

勝てるのに、相手のために負けてあげる。キリストは、十字架につく前に血の汗を流し、もだえ苦しんで祈った。天の父に願えば、直ちに天使の軍団が送られてきて、「自分を殺そうとする者どもを一瞬にして滅ぼすことができたが、自らの意志で、十字架刑という究極の敗北の道を選んでくださった。」

そのおかげで私たちは罪が赦され、神の永遠の刑罰を免れた。

は、電話口で声を震わせて泣いた。信仰によって数々の試練を乗り越えてきたAさんから聞いた初めての弱音であった。

再出発のためにはやむなしと、破産と離婚の両方の手続きの準備に入った。

数か月後、Aさんから明るい声で、「もう破産することは止めました！」という連絡が入った。

私「えっ、破産しないで債務はどうするのですか？」

Aさん「新しい仕事で儲けて全部払います」

敗訴後に模索してきた新規事業が軌道に乗りはじめ、大きな収益が見込めるようになったのだ。

「とてもすばらしい奇跡が起きましたー」。数日後、またAさんから喜びの報告を受けた。

「私がこの事業をする目的は、その利益で都心に大きなキリストの教会を建てることです」と、新規事業の共同経営者から話されたと言う。Aさんは、その時まで、彼がクリスチャンであるとは知らなかった。

実は、Aさんも、都心に大きなクリスチャン・タワービルを建てたいと願い、長年にわたり祈ってきた。

「場所はどこですか？」と聞くと、なんと、Aさんがもともと建設を予定していた、まさにその場所であった。「あまりのショックで鳥肌が立ち、全身が震えましたー」。お互いに意気投合して、タワービル建設も共同で取り組むことになった。

「離婚はどうするのですか？」と聞くと、「信じられないことですが、あの頑なな妻が、初めて私に頭を下げて、『子供たちのために戻ってきてください』と懇願してきました」と言う。

「父よ、どうしてわたしをお見捨てになったのですか？」と叫んで、キリストは十字架で殺されたが、三日後に神の力によって死から復活し、私たち信じる者に永遠の命を与えてくださった。

「負けても勝ち」とは、神による死から復活への勝利である。



光りんさん

理事長の奥さんによる

育児日記

四月から幼稚園に通い出したA君は、最初は「ママに会いたくて寂しい」と泣き顔でしたが、最近は大好きなお友達と仲良く遊んでいるようで、「寂しくなかったー」と笑顔で楽しく通っています。幼稚園で覚えた歌を自宅で歌ってくれるのがとても微笑ましいです。

先日、私がお風呂掃除をしていると、妹のKちゃんがお風呂場に入って「ようとしたので、「入らないでー」とドアの鍵を閉めたら、Kちゃんが大笑きしてしまいました。そしたらA君に、「ママ、Kちゃんはおもちゃであそびたかったんだよ。だからドアをしめちゃだめだよ。きをつけるねってKちゃんにいつて」と言われたので、「Kちゃん気を付けるね、ごめんね」と言いました。

その後、A君が、「ママ、ひとちゅハートがないの?」と言ったので、「うん?」と答えると、「じゃあ、ひとちゅあげる。これでだいしゅきになるよ」と、愛がない行動だよと教えてもらいました。

妹のKちゃんは少しずつ言葉が出てくるようになり、最近では「しよっペーしよっペー」とよく連発しているので、私が「しおしよっペー」と言うて、「と言うと、Kちゃんは「しおしよっペー」と言います（笑）。続けて私が「ひろしよっペー」と言うと、Kちゃんは「ひろしよっペー」と言うのが面白くて、二人で笑って遊んでいます。

赤ちゃんは、お兄ちゃんお姉ちゃんから沢山の愛情をもらって、元気にすくすく成長しています！



ぱぱ、はやくあるいてよ！

カウンセラー 岩崎風水さんによる

心の相談室

ヨガのすすめ

四月七日、「第二回 犯罪からの回復とグループセラピー」では、「どこでもヨガ」と題して、ヨガの講義と実践をしました。刑務所でも、ヨガ教室やマインドフルネスなど、瞑想を取り入れたプログラムが始まっているところがあると聞きます。

先日、刑事施設経験者にグループセラピーでヨガをするを紹介したら、「ゼツタイやらない」と言われました。やらず嫌いなのだと思うのですが、ヨガを「ストレッチエクササイズ」だと思っているようです。

ヨガとは、ポーズを取り、柔らかさを競うことではありません。本質は別にあります。ヨガとは、生き方そのものの付き合いからの哲学です。ヨガはその人の奥深いところから変革をもたらします。

武道だったり、禅だったり、宗教だったり、自分を変える手段は、その人の選択次第で無数にあります。その選択の一つとして、ヨガでもいいと思うのです。薬物依存症の回復施設では、既に、ヨガのプログラムが取り入れられているところがあります。ヨガは心の自然回復に必要なプログラムとなります。

この日の講師シノ先生は、前半の座学で、整形外科ヨガや、ヨガ哲学の話をしました。その中で印象的だったのがマザー・テレサのこの言葉です。

思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。

言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。

行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。

習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。

性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから。

マザー・テレサも、生き方がヨギーニ（ヨガをする女性）だとシノ先生は言いました。ヨガが嫌いという人でも、このマザー・テレサの言葉は心にとどまると思います。

ヨガ哲学は、「ヨーガ・スートラ」を聖典としています。その著者であるパタンジャリの教えに従って学びます。ヨガの根本経典には、「ヨガとは、心の働きを止滅することだ」と記され、そのときに「真の自分」だけが残ると伝えられています。

心の動きを止滅するとは、苦しみも楽しみも悲しみも一切感じない、「無我」の境地です。苦しみも幸せも、心の動きがなすこと。それが分かれば、辛いとき、悲しいとき、楽しいとき、何をしても普段の自分で居ることができ、道を踏み誤ることは無くなります。心のフィルターを取り払えば、目に映るものは、そのものの本来の状態に留まります。

これは、実存主義的な考え方で、ゲシュタルトセラピーの、「コンタクトすること」でフィルターを取り払っていき、ありのままに行き着く」という過程に似ています。

後半は椅子を使つての椅子ヨガをしました。

ヨガの基礎では、マインドフルネスのように呼吸に着目し、精神を落ち着かせます。シノ先生は、姿勢が心に影響する心身一元論を、体験から話してくれました。

自分の体の声を聞き、自分の体がどこまで動き、どこが限界なのか、繊細に調べていきました。

九十分の実技のあとは、心から身体がほぐれていくように、ハーブティーとマリアコーヒーでリラックスしたひとときを過ごしました。

この日は、「犯罪からの回復とグループセラピー」の一日として、とても有意義だったと思っています。

刑務所を経験したマザーハウスのスタッフと、一般の参加者たちが、ヨガの後もにお茶会をする。

社会復帰に必要なのは、当たり前のことだけど、社会の人たちと接することです。一般参加者に対して、マザーハウスがどのような活動をしているのか、刑務所がどういふところなのか知ってもらいたい機会になりました。



おたふくさん

シノ先生は、どこであつてもヨガをします。ポーズをとることもヨガですが、生き方を確認して改めるといふヨガもあります。

参加者の感想を一部紹介すると：「とても楽しくて、肩こりも良くなりました」「初の参加でヨガを知らないのですが、ヨガ教室より、理論をじっくりすることが良かったです」「刑務所出所者の話がとても興味深かったです」。

刑務所出所者がヨガに触れるこの機会を作れたことが嬉しかったです。幸せになる手段には、無数の選択肢がある。その一つにヨガがあるということをつかってもうえたようです。

私は、すべての人に二度と刑務所に入るような自暴自棄なこととはしてほしくなと思っています。私は、自分を大切に、自分の望むように生きられるよう、こつこつ機会を作り続けていきます。

カトリック教会の会議室で、ヨガをする。ヨガを日常に取り入れるのに、最適な場所に思えました。

また、やりたい人が集まり次第、開催したいと思います。

受刑者からのお手紙

塀の中の たより

欲は自分も人も滅ぼす

ケンぼうさん

皆さんの文章を読ませて頂き、元気づけられています。本当にありがとうございます。

先日、勉強になることがありましたので、少しそのお話をしたいと思っています。

その前に、一つ、クイズを出したいと思います。「刑務所内で一番の発言権を持つているのは誰ですか?」。答えは、最後で…。

私は先日、刑務官の人と話す機会があり、その刑務官の人のお話の中に、「刑務所のルールを厳しくしているのは、九十パーセントが受刑者で、残りの十パーセントが刑務官だ」という話題があり、私はその通りだと思いました。(略)

初めて刑事施設に入所した頃を思い出してください。祝日にお菓子(特食)が出ると知った時、どう思いましたか? 私は、「まじかーヤッター」と素直に喜んだことを覚えています。でも…それが当り前と違っていくと…「えーこんなのかよー」と言葉が変わったと思います。どうしてかな?と考えると、自分の勝手な思い込みで、当り前と決めつけて欲をかいているからそうなるのだと思います。

ちなみに、私の刑務所では、昨年の海の日の特食が wasn't でした。施設からの説明によると、予算として出ていない為、というものでした。そしてお盆は、特食は一切なしです。ただの休日です。そんな刑務所に来たからこそ、分かったこともありました。自分がどれだけ欲をかいていたのかを…。

皆さんは、マザーハウスが何故このような活動をしているのか考えてください。五十嵐さんをはじめ、元受刑者の方々

が集まり、私たちの生活状況を知っている人が集まり、「こつこつとあげれば良いかなー?」と考えて頂き、一生懸命になつてくれているのですよ。私たちの受刑生活を経験された方ですら、「これはおかしい」と思うことを言ってくれているんです。どうしてそれに気付かないのですか? 私たち受刑者は、お願いしている立場ですよ。それを理解できない人は、マザーハウスや、会員の方々と、自分と向き合い、反省して更生しようとしている人の足を引っ張るだけです。(略)



河童さん

少し私が体験したお話をします。

私は、調査や懲罰になる度に、苦情の作成を申し出ています。ですが、苦情として書く際には、十分に気を付けています。何でもかんでも苦情を書けば良いわけではないからです。

私は先日、受罰中の時間について職員ともめました。きっかけは、「休日の夕食時間が午後四時～四時半」と、刑務所の受刑者生活のしおりに書いてある為、私はそのまま、休日の午後四時～四時半は夕食時間と思い、受罰姿勢を取らずにいました。それを見た職員が「受罰姿勢を取れ」と言ってきたので、私は、「今、何時ですか?」と聞いたところ、職員は「午後四時十五分」と答えたので、私は、「受刑者生活のしおりに、休日の夕食時間は午後四時～四時半と書いてありますよ」と言い返しましたが、職員に、「空下げ(※食事の食器を下げること)が終了したら飯の時間は終了なのだから、受罰姿勢を取りなさい」と言われた為、その時は指示に従いました。

後日、担当の職員さんに相談したところ、「言いたいことは分かる。でもな、それは決して白(私たち受刑者が有利になること)にはならないグレーラインだ」と言われました。

私は、はじめは意味が分かりませんでした。少し考えて、「もし、私がこのことで苦情を書いたりすれば、逆に、他の受刑者の方々に迷惑がかかってしまう」ということだと気づき、考えを改めました。私の言っていることが正しいと思っ

ても、気持ちをなおさえるしかありませんでした。担当の職員さんが言った「グレーライン」という言葉の意味が分かったからです。

グレーラインとは、職員が黒にしよう(規律を厳しくしようと思えばできる)だけで、決して、白(私たち受刑者が有利になること)にはしないということです。

例えば、空下げが午後四時十五分に行われたとします。受刑者全員からすれば、雑居ではおしやべりができますし、独居等では本を読むこともできます。なのに、私が苦情として上へ上げてしまえば、どうなるでしょうか?「休日の夕食時間は四時～四時半であるから、おしやべりはもちろんできませんし、本を読むことさえできない」ということになるかもしれません。つまり、受罰姿勢を取っている者には有利であつても、刑務所の受刑者全体で考えれば不利益ではないのです。だから、自分にとって正しく、都合が良いことでも、受刑者全体として不

都合ならば、それは自己中心的な考えであるのです。確かに、私が言っていることは正しい。だが、正しいと分かっているも、身を引かねばならないこともあるのです。

最後になりますが、私のお話に付き合っていたいただき、ありがとうございました。

クイズの答えは、医務課の医者(医師)です。施設の長ではありません! 私たちの生活において、作業を指定する時、懲罰を科す時など、全ての動作において、医者の許可なしでは施設上は何もできないのです。



光りんさん

赦すことで、
相手に対する感情から
解放される

5013さん

二月号のたよりで、十三番目の使徒さんの文に込み上げてくる気持ちがあつたので、助言をしようと筆を執りました。

雑居で嫌なヤツがいても、ある程度、我慢しないといけない時もあります。違う工場に行つたところで、そこが良いとは限りません。もしその工場でまた嫌なヤツがいたら、また違う工場に行くのですか?

強い心を持つために、マタイの福音書五章三十八節～四十八節を読むといいです。

「あなたがたも聞いているとおり、『目には目を、歯には歯を』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。悪人に手向かつてはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。あなたを訴えて下着を取ろうとする者には、上着をも取らせなさい。だ

れかが、一ミリオン行くように強いるなら、一緒に二ミリオン行きなさい。求める者には与えなさい。あなたから借りようとする者に、背を向けてはならない。

あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあるのか。徴税人でも、同じことをしているではないか。自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになるのか。異邦人達でさえ、同じことをしているではないか。だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」。

相手を赦すことで、相手に対する感情から解放されます。問題にとらわれるよりも、息を吸って歩くこと、走ること、食べること、…あたりまえの生活ができることに、幸せを感じるべきです。そして、偽りのない心を見つめて、自分の罪と向き合うことができたなら、相手のことは気にならなくなると思います。



河童さん

負けないで!

神様がいつも見ている

姫路の光ちゃんさん

二月号の十三番目の使徒さんの投稿を読み、何とか励ますことはできないかと考え、筆を走らせています。

私も五年ほどは雑居（共同室）で生活を送っていました。そういう話を聞く度に嫌な気持ちになるのは私だけではないと思います。

十三番目の使徒さんは無期とのことですが、「今の状況に、理不尽ながらも、しっかりと向き合おうとしている力」があることに感服しています。確かに、今の状況から逃げ出せば、楽になることは間違いないと思います。ましてや、娑婆からの知り合いとなれば、上下関係もはつきりとしているので、今の十三番目の使徒さんの立場なら、私はどうするだろうかと考えました。

私も同じように塙の中で生活していますので、上下ではなく同等者として意見を言わせていただくならば、「後悔はしませんか?」ということです。その人たちから解放されても、十三番目の使徒さんはその時はホッとするでしょう。しかし、今まで一生懸命に積み重ねてきた二年の月日を無駄にしてしまうのですか?それだけの価値があるのですか?

私であれば、今まで必死で我慢してきた訳ですから、もう少し耐え忍んでみてはどうでしょうか。他人事に聞こえるかもしれませんが、工場を捨てるのか、或いは耐え忍ぶのか、この二つに答えを絞ることもないのではと思います。また時間が経てば、違う答えを見つけれられるかもしれません。単独室への移動を工場担当に相談するのも考えてみてはどうですか。

神はいつも行いを見つめています。お二人にはいつか神の裁きが下されると思います。その日までの道のりは大変かもしれませんが、私も十三番目の使徒さんが受刑生活を、自分のために、更生のために、有意義に過ごせるように心から祈らせて頂きます。十三番目の使徒さんに神のご加護がありますように。

「愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。『復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる』。もしあなたの敵が飢えたなら、彼に食べさせなさい。渴いたなら、飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃える炭火を積むことになるのです。悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい」(ローマ十二章十九、二十一節)

西洋には、

「善に対して悪で報いるのは悪魔のしわざ。悪に対して悪で報いるのは人間のしわざ。悪に対して善で報いるのは神のみわざ」

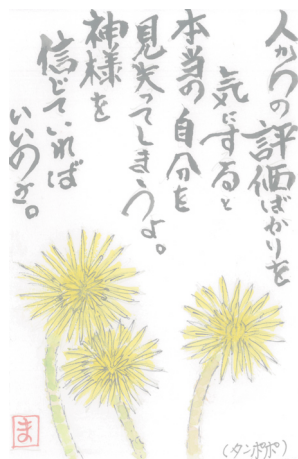
という言葉があるらしい!

責任転嫁

風つ子さん

皆さんはしていませんか？

恥ずかしながら、私は多くのことに關して責任転嫁をしてきました。理由はすごく簡単です。「楽だから」です。自分が間違っていると分かっても、それを認めるのはなかなか難しいものです。でも、自分が認めないと、その責任は他人が負うことになります。自分が背負うと重いから、他人に背負わせる。今まで当たり前のようにしてきた氣がします。



風つ子さん

自分のことを正当化したい。それって本当に正しいのかな？と思うようになりました。

同囚のこに腹が立つ、職員への対応に不満。ならば、こんな塀の中に来るような事をまず、やらなければ良かったのだと思います。社会では、好きな者同士が集まって楽しく過ごすこともできますが、この中で出会う人たちは、育った環境も価値観も常識もみんなそれぞれです。自分の物差しだけで人や物事を判断していませんか？「私は正しい」と思っても、周りの人たちが全て「私」と同じとは限りません。そんな時、自分の意見だけを通し、相手の話も満足に聴かず、自分を正しい人間に勝手にしていませんか？

私はようやく今になって、自分が間違っていたときには素直に反省し、自分勝手な理由だけで相手を責めたり、相手の責任にしたりすることを止めました。間違っていたら謝ればいいんです。この塀の中にいて、絶対に赦せない事なんてありますか？あると言う人がいれば、その人は傲慢な人だと思っています。

自分が犯した罪に対しても、「本当にここから申し訳ない事をした」と思っている人がどのくらいいるのでしょうか。「あいつのせいだ」「こいつが悪い」「運が悪かった」。人の責任ばかりにしていますか？

一度、しっかり、自分が犯した罪と、人にしてしまった間違った事を振り返り、自分自身を見つめ直してはどうでしょうか。

自分の責任はしっかり自分で背負って生きた方が、今後、後悔するようなことが少なくなるような氣がします。

人それぞれ考え方が違いますから、私の意見も、正しいのか間違っているのか定かではありません。でも少なくとも、正当化して生きていた頃の自分より、自分の過ちを素直に認めることが出来るようになった自分の方が大好きです。

話が前後しますが、あまり自分の「物差し」を長くしないでください。長いとどうしても人を見下したり、謙虚さを失ったり、人を裁いたりしてしまいます。短い「物差し」でいいではないですか。ちよつとしたことでも相手を尊敬でき、相手より低く立つことができ、そして、相手を赦すことができると思います。

今までの行動、考えを変えるのはすごく勇気のいることだと思いますが、意識して心掛ければ変えられると思います。相手を責める前に、自分はどうかなのか。人を裁く時間があつたら、己を律する時間に要した方が、自分の成長にもなると思います。イライラしがちな人、すぐ

に腹を立ててしまう人、すぐに人を裁き、責め、自分を正当化し、責任転嫁をしてしまう人。今からでも十分間に合います。一緒に変わりませんか。私は、過ちを自分自身でしっかり認められる人間になり、今日より明日、明日より明後日と、少しでもこころの広い寛容な人間でありたいと思います。

修行だと思つて耐え忍ぶ

ミルクティーさん

二月号の十三番目の使徒さんの投稿を拝見して思つたことを書きたいと思います。

刑務所の共同室で生活していると、同囚の言動・行動で理不尽に思う事はやはり多いです。こちらが「無期だから」と我慢していると、向こうも人を見て図に乗ってくるから質が悪いですね。私も務め始めてから十年になりますが、過去に、嫌というほど理不尽な事

をされました。例えば、給付金の申請方法を教えていると、「教え方が悪いー」と言つて頭を叩かれる。入浴場で前に並ぶ人達が入浴し、私が先頭になつたら後方から飛び蹴りされる。賭け事をやらされ、相手が得意な将棋ではさんざん良い品を取つておいて、不得意の五目並べで一回負けたら基盤を引つくり返し、「俺が負けた分は（一番マズいレトルトの）焼鮭をやるから、それでいいだろ」と押し付ける。などです。ちなみに同じ人です。この他にも、「あれやれ」「これやれ」とアゴで使う人、何か下手を打つと「工場から出てけ」と強要する人、それはもう数えたらキリがないほどのです。私も今まで本当にブツ飛ばしてやりたい人はいましたが、それでも我慢しました。



雪兎さん

それは、有期刑になって無期にはある、一つの壁があるからです。満期があれば、いくら何をやったところで満期が来ればシヤバに出られます（増刑事件を起こさなければ）が、無期はそういう訳にはいきません。この決定的な差は本当に大きいと感じます。でも、それだけの事をやって刑務所に入ったのも事実です。

私も今まで人とトラブルになり、工場を出たことがあります。ですが、こんな経験をしてから気づくようでは遅いのですが、やはり我慢するしかないのです。

もし工場をあがっても（※懲罰などその工場を出て行く）、他の工場にも理不尽な事を言う人はいますし、離れたはずの嫌な人が後から工場においてくる（※その工場に新しく配役される）こともよくあります。ですから、どこに行っても同じなのです。もしかしたら、他の工場へ行けば良い工場、良い部屋にあたるかもしれませんが、そうなるかは蓋を開けてみないと分かりません。また、（上手くいっても）途中で変な人が工場においてくるケースも実に多いのです。特に、処遇上で問題だった人物を、官（※刑務所・刑務官側）も、ポンと工場におろしてくるから余計にトラブルが増えるんですよ。

ですが、今まで私が経験して思ったのは、そういう人がいなくなることを願いつつ、部屋替えまで自分を殺して、修行だと思つてひたすら耐え忍んでください。それを耐えた時には、自分が我慢強くなつた、と一回り大きくなれますから。ただ、どうしても我慢できない時は、一度ケンカするぞ、の勢いで反抗するのも手かなと思います。相手がそれで引いたらもう仕掛けてこなくなるでしょうけど、これは一種の掛けですから、おすすめはできませんが……。担当などに言つたら言つたで、チンコロ（※告げ口）のレッテルを貼られ、どこの工場に行つてもチンコロ野郎になつてしまふし、本当に大変ですよね。

アドバイスになつたかどうか分かりませんが、頑張ってください。



一兵さん

心配してくれている者の
顔を思い出し、

踏みとどまる

Ｔ・ーさん

当所では毎月一回、「うんぜん新聞」というのが発行されているのですが（月末に全室に配布）、自分の投稿した作文が二か月連続で掲載されました。

二月号で採用された作文をそのまま書かせていただきます。

みんなが、「良かったよ、感動したよ！」と言ってくれて、大変嬉しかったです。そして何より嬉しかったのが、工場のオヤジ（※刑務官）から、「いい文だった！」と言ってもらえたのが、自分自身で嬉しく、活力が出ました。

今の自分の工場は、みんな（約二十六名）が一致団結して、工場を盛り上げよう！と、各自が行進・号令・作業を一生懸命頑張っています。

【工場就業の嬉しさ】

私は昨年、年明け早々、所内において、ある事件を起こしてしまい、昨年の秋に懲役九か月という判決を受け、刑期を延ばしてしまいました。私は今でも、「ほんまにあんな事を俺はやったんかなあ？」という気になりますが、当時、自分自身の意思で犯行に及んだのは事実であり、今は心から反省・後悔を噛みしめて生活しています。己の辛抱の無さからの事件ですので、誰も恨めません。

約十か月間の昼夜間独居者としての情けない日々もようやく終わり、現在の工場出役が決まり、今は一生懸命、工場で生活させていただいております。事件当時の工場のオヤジさんが、今いる工場のオヤジさんです。増刑になった自分を再度拾ってください、私は心から嬉しく、私なりにではありますが、今は全てのこと感謝して、何事においても活力と気力をいただきながら、精いっぱい（工場に）勤めています。

テレビもなく、人との接触も一切ない生活を十か月も送ってきたせいか、テレビの有り難さ、人との会話の有り難さ、工場という人と人の輪の中での生活の嬉しさに、心よりただ感謝と幸せを感じています。

私は増刑になり、出所が延びましたが、十か月間の昼夜間独居生活で、今まで気づけなかったことに気づき、学んだことがあります。人は、人と人との間で生きてはじめて、人間としての喜び、悲しみ、嬉しさを感じて生きていくんだなあ、ということなんです。当たり前の事ではありますが、日々の生活でつい忘れがちになってしまうのではないのでしょうか？

私には、余命わずかの母がいますが、今回の刑が延びたことについて、「なんで刑が延びたん？」と手紙を書いてきました。私は母をがっかりさせたくない思いから、なかなか説明の手紙を書けずいます。ですが、近々書くつもりです。本来ならあと数ヶ月で出所だったのですが、あと一回、正月を当所で迎える事になってしまいました。

皆様も、腹が立ち、ケンカ等でイライラする事があると思いますが、社会で心配してくれている者の顔を思い出し、どうか踏みとどまってください。損するのは自分自身です。後悔だけが残りません。

増刑になった私が偉そうなことばかり書き、すみません。最後まで読んでくださり、有難うございました。】

以上が、二月号の「うんぜん新聞」に掲載された自分の作文です。

俳句・川柳も載りました。

☆春が来て 耐えた分だけ 花が咲く

☆頑張れと 聞こえて来るは 神の声



河童さん

同囚の絵に癒されます

島人の星さん

皆様は毎日の余暇時間、何をされていますか。

毎月送られてくるマザーハウスたよりで私が気になっているのが、絵のことです。たくさんさんの絵が載っていますが、同囚がたよりに載せた絵に癒されます。

同囚は、所内の絵画クラブに入っていた経験もあり、人の見えないところで絵に関する本等を購入して勉強しています。人から教わって勉強する方法と、何も知識が無い状態で独学する方法では、差があります。作業や仕事でも同じだと思えます。好きなことに努力して、その積み重ねの中で、失敗を経て、上達していく。私は、同囚の絵を見て、明日も張り切って頑張るぞ！という気持ちで気合が入ります。

同囚を見習って、私も好きな事を見つけて、心を豊かにしたいと思います。今後、同囚の心がこもった絵に期待します。

聖書を味わう

O・Mさん

全ての人は罪人です。聖書は、「罪を犯さない人は誰もいない。誰でも罪を犯す」と言っています。「罪の支払う報酬は死」(ローマ六章二十三節)です。永遠の死へと向かっています。

今回は、聖書を味わうことについて書きたいと思います。

自分の好きな聖書の言葉の一つに、詩篇十九章七〜八節があります。

「主のおきては完全であつて、魂を生かえらせ、主のあかしは確かであつて、無学な者を賢くする。主のさとしは正しくて、心を喜ばせ、主の戒めはまじりなくて、眼を明らかにする」。

心を静めて熱心に聖書のみことばを読まない、何の意味もありません。聖書をきちつと読むのであれば、心に神のことばを味わい、心の中にため込むように読むことをおすすめします。(略)

私は、この施設に入所してからもう少しで一年が経ちますが、最初の頃、反

則事犯を犯してしまい、懲罰を受けました。そのことを反省して、今こうしてしっかり回心し、ここまで耐え抜いて頑張つてこれたのも、工場担当の温かい指導があつてこそです。心を癒され、本当に感謝しています。

まだ先はありますが、神様とともにしっかりと悔い改めて生活に励んでいきたいと思っています。

理事長の奥さんによる

Lovely DAYS

ミニオンが大好きな息子^①の為にミニオンのTシャツをインターネットで探していたら、大人用の激安ミニオンTシャツを発見！

迷いなく購入して主人に渡したら、早速着ていました。五十四歳のおじさんがミニオンTシャツを着て法務省や役所に行くことを想像したら…爆笑。

看護師 中谷さんによる

健康相談窓口

―肝炎―

気温差も大きく、体調を崩しやすい季節ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

今月は、B型・C型肝炎について説明をしたいと思います。



光りんさん

近年では、幼少期に受けた集団接種などによる注射針の連続使用によって、B型肝炎へ感染した方々の救済処置に関して、国も方針を打ち出しています。

☆B型肝炎

B型肝炎ウイルス(HBV)は、血液や体液を介して感染します。体液の感染源として、汗以外は全て感染すると考えてください。

母子感染や乳幼児期の水平感染(※個体から個体に感染すること)では、B型肝炎ウイルスが排除されず、持続感染(※ほぼ生涯にわたり感染が継続する)となります。成人の感染では、性行為感染が多く、急性肝炎となつて治癒することが多いですが、遺伝子型によっては慢性化するものもあります。

☆C型肝炎

C型肝炎ウイルス(HCV)は、血液を介して感染します。その主たる感染経路は、血液製剤と医療行為、覚醒剤使用、入れ墨などです。

1) B型急性肝炎

大部分は、一過性の肝障害のみで、保存療法（※病巣の摘出や手術を行わない治療法）が行われます。

慢性化が危惧される症例や肝炎遷延（ALT高値が長期に続く者、肝炎発症後もウイルス量が減つてこないもの）、重症・劇症肝炎（高度の黄疸、肝性脳症、著しい肝合成能の低下）は、抗ウイルス療法の適応となります。薬としては、バラクルード錠（0.5 mg）一回一錠、一日一回が用いられます。

2) B型慢性肝炎

B型慢性肝炎の治療目標は、ALTの持続正常化、HBe抗原セロコンバージョン（e抗原の陰性化、e抗体の産出）による肝炎の鎮静化とB型肝炎ウイルスの増殖抑制であり、最終的な目標は、HBS抗原の消失になります。

治療には、インターフェロンや核酸アナログ製剤が使用されます。インターフェロンには、ウイルス増殖抑制作用、免疫賦活作用があり、第一選択となります。治療への反応性はそれほど高いものではありませんが、短期的な投薬（四十八週間）により、その後の投薬が不要となることが期待できます。通常、ペグインターフェロンアルファ2a製剤を四十八週間投与します。

インターフェロン治療に反応しない症例、線維化が進行している場合、肝硬変では、核酸アナログ製剤を使用します。核酸アナログ製剤の投与は、B型肝炎ウイルスの増殖を抑えて肝炎を鎮静化する効果が高いです。

慢性肝炎の場合は、ウイルスマーカー（HBS抗原、HBコア関連抗原）の推移によって中止を検討することもできますが、肝硬変では、生涯に渡って治療を継続します。

治療薬としては…

☆ペガシス注射

一回一八〇μg

週一回 四八週間投与

皮下注射 ↑インターフェロン製剤

☆バラクルード錠（0.5 mg）

一回一錠、一日一回

→抗ウイルス薬（核酸アナログ製剤）

☆デノゼット錠（300 mg）

一回一錠、一日一回

→抗ウイルス薬（核酸アナログ製剤）

肝炎で、現在治療を受けている方は、定期的に採血もされているかと思えます。その際、ご自身のデータを確認できる方は、必ず控えておき、その経過を把握してください。

自分の身体は、誰も守ってはくれません。自分で予防・治療における知識を持つて、身体に耳を傾けて大切にしてあげてください。

MLPについてお詫び

このたびのMLP整理にて、皆さんの信頼関係を試すような方法を選んで実施したこと、深くお詫び申し上げます。文通ボランティアの皆様、受刑者の皆様、双方にご心配をおかけして本当に申し訳ございませんでした。

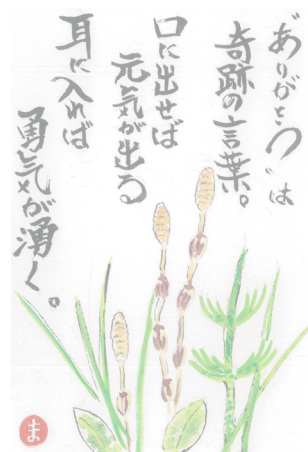
今後はこのような大整理はしないよう、気をつけます。万が一、何かの必要があって整理を実施することになっても、同じような方法は取らず、信頼関係の保持に配慮できているか、厳重に注意して実施いたします。

足りないところが多く、ご混乱とご不便をおかけしますが、今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

ご注意：

受刑者の皆様へ。文通ボランティアの方に「文通希望」と書いても、無効ですのでご注意ください。「事務局山岡るり宛」に不備のない同意書を送ってくださいませよう、お願い申し上げます。

MLP 文通担当 山岡るり



風つ子さん

ご寄付ありがとうございます！

3月16日～4月15日の寄付金

合計：224,199円

(内 愛のプリズム宣教基金：13,000円)

投稿文ほどしっかりと書けないけれど、
日々の想いや気づきを分かち合いたい！
という方のための一言コーナー！

つぶやき！

理事長の風貌って、どんなかなあ？と思っていたら、以前送っていた「た「百万人の福音」で見たことができた。長年の疑問が解決したと思つたら、新たな疑問が発生…。誰か有名な人に似ていると思うんだけど、誰だっけなあ？」。(M・Tさん)

編集後記 and お知らせ

皆様、いつもありがとうございます！

最近、眼鏡を忘れたり、データを忘れたり、色々やらかしているのですが…今月はなんと、福音たよりを作っていたら、誤ってマザーハウスたよりの方の編集データを消してしまいました…！（大泣）編集データを失くすと、ゼロから冊子の枠組みを作る羽目になります。どうやってもデータは戻らず、「しばらく徹夜か…」と覚悟しましたが…、奇跡的に昔のデータが見つかり、ところどころ修正は必要だったものの、大事に至らずに済みました。油断禁物！ですね！気を引き締め直します！

他にも色々あってバタバタしていましたが、無事に5月号が完成してとっても感謝です！来月号もお楽しみに！

☆お知らせ☆

受刑者の皆さんには、今月号と一緒に『福音たより2018 イースター号』を同封しております。福音たよりは、次号（2018 クリスマス号）からは希望者のみ送付となりますので、ご注意ください。また、支援者や文通ボランティア、教会、修道会の皆様の中で、福音たよりをご希望の方がいらっしゃいましたら、お送りしますので、お知らせくださいませ。

マザーハウスたより編集局

＊マリアコーヒーのオンラインショップを
開設いたしました！

☆ URL : motherhouse.shop/

(裏表紙左下にQRコードがございます)

行事予定

▼5/18

韓国の法務部（来日予定）と面談

▼5/19 14:00～

聖イグナチオ教会 岐部ホールにて、
対談「刑務所の医療」（VIPプリズム）

▼5/20 10:00～

新宿 NPO 協働推進センターにて、
マリアコーヒー販売

▼5/27 午前～

カトリック茅ヶ崎教会バザーにて、
マリアコーヒー販売

▼5/27 ミサ終了後～

カトリック所沢教会にて、
マリアコーヒー販売

▼5/28 18:00～

岐部ホール 305号室にて、
APS 研究会

▼5/29 18:00～

NPO法人マザーハウスにて、
当事者ミーティング

▼6/1 11:00～

カトリック田園調布教会にて、
講演「人生を変える出会いの力」

▼6/2 10:30～

専修大学にて、講義「刑務所問題」

▼6/18

東京学芸大学にて、講義「人権教育」

マリアコーヒー（ルワンダ・コーヒー）

＊製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

FAX：03-6659-5270

メール：maria_coffee@motherhouse-jp.org（QR →）

価格：粉200g または 豆200g …… 900円

カフェドリップ10g（1回分）… 100円



☆継続して購入・販売してくださっている皆さま（順不同）☆

カトリック茅ヶ崎教会／カトリック北仙台教会／カトリック所沢教会／カトリック中和田教会／カトリック布池教会／カトリック東山教会／カトリック浜松教会／カトリック新子安教会／カトリック菊名教会／カトリック碑文谷教会／カトリック東仙台教会／カトリック春日部教会／クリスト・ロア宣教修道女会／カトリック足利教会／カトリック神田教会／カトリック松戸教会／カトリック戸塚教会／カトリック桃山教会（平和環境部）／カトリック大分教会／カトリック西千葉教会／カトリック下井草教会／カトリック新潟教会／日本カトリック神学院／ドン・ボスコ社



☆ルワンダの祈り☆



ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。

しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

獄中POSTシリーズ

＊獄中ボランティアの方の絵画と文字を
ポストカードなどに印刷する企画です。

FAX：03-6659-5270

メール：motherhouse.tayori@motherhouse-jp.org（QR →）

入手方法：会員の皆様や、ご寄付（5000円以上）くださった方々、

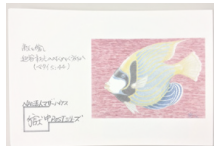
その他の機会等で感謝を込めて配布させていただく予定です。

（絵画＋言葉の組み合わせで、同じデザインは最大2枚のため、
デザインはランダムです。）

＊デザインの絵画部分を選んで購入されたい方は、講演会や郵送にて
販売しておりますので、お気軽にお問合せくださいませ。

（ポストカード／封筒は3枚で800円、便箋は30枚で800円）

ホームページ：https://npo-motherhouse.amebaownd.com/（QR →）



マザーハウスたより5月号

2018年5月15日発行 発行責任者：五十嵐 弘志

〒130-0024 東京都墨田区菊川 1-16-17-102 NPO 法人マザーハウス



↑ 理事長 facebook ↑ たよりブログ ↑ MLPのメール ↑ オンラインショップ

ラウレンシオ（便利屋業）

＊元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、

掃除などをさせていただきます。お見積もりは無料です。

TEL：080-4614-8508

FAX：03-6659-5270

メール：lawrance@motherhouse-jp.org（QR →）



古本募金（きしゃぽん）

＊書籍やDVDを下記送り先にご寄付いただくと、マザーハウスに還元されます。

送り先：〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916

（マザーハウス事務所に送らないようお気を付けください）

TEL：0120-29-7000

Webコンサルティング

＊WEB解析士マスターの資格を持つ当事者スタッフが、サイト制作から解析、
マーケティングまで一貫したコンサルティングをいたします。

メール：sepi@websepi.com（QR 右→）

ホームページ：http://websepi.co.jp/（QR 左→）



ホームページ ↑ メール ↑

カウンセリング

＊当事者やご家族の方を対象に、当事者スタッフが、実務に役立つ専門的
なカウンセリングを行います。

メール：iwazakifuusui@gmail.com（QR →）

価格：30分5000円より

ホームページ：http://profile.ameba.jp/fengshui0708/（QR →）



お問合せ

いつも本当にありがとうございます。随時ボランティアの方を募集しております。

TEL：03-6659-5260

メール：info@motherhouse-jp.org（QR →）

ホームページ：「NPO マザーハウス」でご検索ください。（QR →）



☆ご支援☆

口座名：特定非営利活動法人 マザーハウス 【トクヒ】マザーハウス

郵便振替口座：00170-0-586722

みずほ銀行：新宿支店 普通口座 2376980

正会員：一口5000円（年会費） 【獄POSミニセットをプレゼント】

賛助会員：一口3000円から 【獄POSポストカードを1枚プレゼント】

社会復帰支援：ご寄付 【5000円以上で獄POSミニセットをプレゼント】

☆洋服等の物資の送付先：〒348-0061 埼玉県羽生市稲子 36-5

（担当者：江口 TEL：080-4057-2518）